医療機関薬剤部門における薬剤補助員との協働実態

―障害者就労支援の視点からの探索的検討―

○ 村田 久枝[1) 2)] 市本 早紀[1)] 寺本 有里[1)] 藤尾 みどり[1)]
1)大阪国際メディカル＆サイエンスセンター 大阪けいさつ病院 薬剤部、2)名城大学大学院 総合学術研究科

【背景】

- 近年、医療機関ではタスク・シフト／シェアの推進を背景に、多様な人材活用が求められている[1)]。
- 「調剤業務のあり方について（2019年）」（以下、0402通知）により、薬剤補助員による補助業務の範囲が明確にされた[2)3)]。
- 薬剤部門における薬剤補助員との協働の実態や課題は明らかになっているとはいえない。

【目的】

薬剤師を対象に実施された無記名アンケート調査の結果を分析し、薬剤補助員との協働に対する薬剤師の認識の特徴、有用性、課題を明らかにする。

対象施設の薬剤部門は、2019年より障害者雇用に取り組んでおり、業務分担が行われている。

【方法】

単一医療機関の薬剤部に勤務する薬剤師（60人）を対象とした無記名式横断的アンケート調査

- 薬剤部では、薬剤師60人、薬剤補助員20人（障害者雇用職員13 人、時給制一般職員4人、派遣スタッフ 3人）が業務分担を行っている
- 調査は回答をもって研究参加への同意とみなす旨を明記し、Microsoft Formsを用いて2025年10月24日～31日に実施した
- 本調査は薬剤部門教育担当薬剤師が実施し、薬剤部門責任者である発表者は調査に直接関与しなかった

※本研究は大阪けいさつ病院倫理審査委員会の承認（承認番号 2628 号）を得ている

【調査項目】

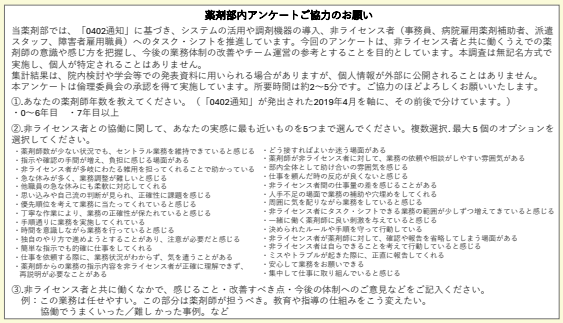
①薬剤師経験；0402通知発出前後の職務経験に着目し、
0～6年目（若手群）と 7年目以上（ベテラン群）の2群に区分

②薬剤補助員との協働に関する認識（29項目から最大5項目選択）

③自由記述 ※アンケート内の文言は、一部現場でイメージしやすい文言（雑用、非ライセンス者等）を使用している

・選択式回答は単純集計を行い、全体の認識傾向を把握し経験年数別に記述的比較を行った

・自由記述は研究分担者間で協議し、協働に関する特徴的傾向を探索的に分析した



薬剤部内アンケートご協力のお願い

当薬剤部では、「0402通知」に基づき、システムの活用や調剤機器の導入、非ライセンス者（事務員、病院雇用薬剤補助者、派遣スタッフ、障害者雇用職員）へのタスク・シフトを推進しています。今回のアンケートは、非ライセンス者と共に働くうえでの薬剤師の意識や感じ方を把握し、今後の業務体制の改善やチーム運営の参考とすることを目的としています。本調査は無記名方式で実施し、個人が特定されることはありません。
集計結果は、院内検討や学会等での発表資料に用いられる場合がありますが、個人情報が外部に公開されることはありません。
本アンケートは倫理委員会の承認を得て実施しています。所要時間は約2～5分です。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

①.あなたの薬剤師年数を教えてください。（「0402通知」が発出された2019年4月を軸に、その前後で分けています。）
・0～6年目　・7年目以上

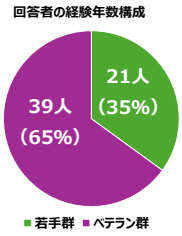
②.非ライセンス者との協働に関して、あなたの実感に最も近いものを5つまで選んでください。複数選択.最大５個のオプションを選択してください。

・薬剤師数が少ない状況でも、セントラル業務を維持できていると感じる
・指示や確認の手間が増え、負担に感じる場面がある
・非ライセンス者が多岐にわたる雑用を担ってくれることで助かっている
・急な休みが多く、業務調整が難しいと感じる
・他職員の急な休みにも柔軟に対応してくれる
・思い込みや自己流の判断が見られ、正確性に課題を感じる
・優先順位を考えて業務に当たってくれていると感じる
・丁寧な作業により、業務の正確性が保たれていると感じる
・手順通りに業務を実施してくれている
・時間を意識しながら業務を行っていると感じる
・独自のやり方で進めようとすることがあり、注意が必要だと感じる
・簡単な指示でも的確に仕事をしてくれる
・仕事を依頼する際に、業務状況がわからず、気を遣うことがある
・薬剤師からの業務の指示内容を非ライセンス者が正確に理解できず、再説明が必要なことがある
・どう接すればよいか迷う場面がある
・薬剤師が非ライセンス者に対して、業務の依頼や相談がしやすい雰囲気がある
・部内全体として助け合いの雰囲気を感じる
・仕事を綿んだ時の反応が良くないと感じる
・非ライセンス者間の仕事量の差を感じることがある
・人手不足の場面で業務の補助や穴埋めをしてくれる
・周囲に気を配りながら業務をしていると感じる
・非ライセンス者にタスク・シフトできる業務の範囲が少しずつ増えてきていると感じる
・一緒に働く薬剤師に良い刺激を与えていると感じる
・決められたルールや手順を守って行動している
・非ライセンス者が薬剤師に対して、確認や報告を省略してしまう場面がある
・非ライセンス者は自らできることを考えて行動していると感じる
・ミスやトラブルが起きた際に、正直に報告してくれる
・安心して業務をお願いできる
・集中して仕事に取り組んでいると感じる

③.非ライセンス者と共に働くなかで、感じること・改善すべき点・今後の体制へのご意見などをご記入ください。
例：この業務は任せやすい。この部分は薬剤師が担うべき。教育や指導の仕組みをこう変えたい。
協働でうまくいった／難しかった事例。など

【結果】

回答60人
回収率100%

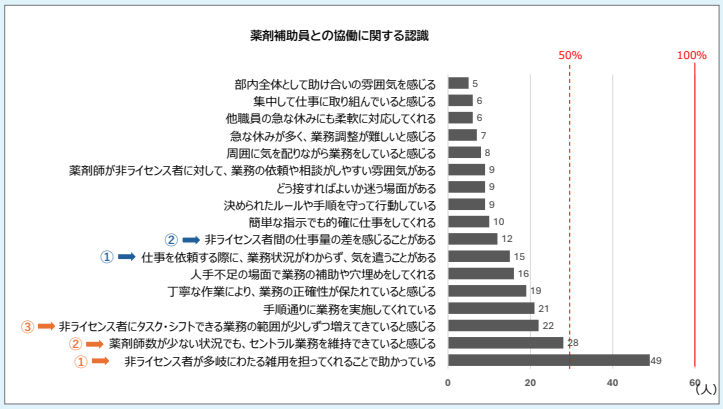


薬剤補助員との協働に関する認識

＜主な認識＞
① 雑務の負担軽減（82%）
② セントラル業務の維持（47%）
③ タスクシフトの推進（37%）

＜課題＞ ① 業務状況が分かりにくい（25%）
② 補助員により業務量の差がある（20%）

➡ ■ **職場環境に関する回答も複数認められた**
■ **重大な安全性に関する回答は認められなかった**

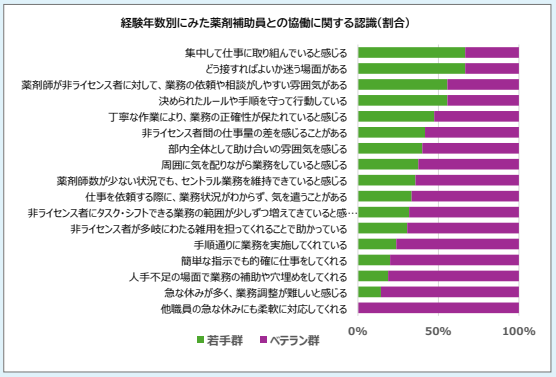


経験年数別の比較

＜若手群＞
・薬剤補助員との関係性やコミュニケーション

＜ベテラン群＞
・急な休みに伴う業務調整や業務量の偏り
・担当業務の把握のしづらさ

＜両群＞
・依頼時における**相手の業務状況の把握困難**
・**若手薬剤師の経験機会の減少**への懸念



【考察】

- 薬剤補助員との協働は、**薬剤師の業務負担軽減**や**セントラル業務の維持に寄与**するとして認識されており、重大な安全性に関する課題も認められなかった。タスク・シフト／シェアや0402通知の推進により、**薬剤補助員との協働体制が概ね機能**していることが示唆された。
- 経験年数によって協働に対する認識には特徴が認められた。
  - **若手群では、関係性やコミュニケーションへの戸惑い**
  - **ベテラン群では、協働の有用性と業務運用上の課題**
- 多様な職員との協働は、**十分な理解が導入の前提となるのではなく、実際の協働経験を通じて相互理解や受容が形成される可能性**が示唆された。ジョブコーチ支援において、維続的な職場内での関わりを通じた相互理解の形成が重視されていることとも一致する[4)]。
- 協働を円滑に推進するには、
  - **業務を役割分担**として捉え、**障害者を含む薬剤補助員との対等な協働関係を構築**
  - 受け入れ側職員への支援体制を整備することが重要　である。ジョブコーチ支援において、障害者本人と職場側への支援が重視されていることとも一致する[4),5)]。
- 本研究は単一施設を対象としているため、一般化には限界がある。薬剤師の認識を経験年数の視点で整理し、**薬剤補助員との協働および障害者雇用の推進に向けた実践的示唆を示した**点に意義がある。

【参考文献】
1)厚生労働省　第77回社会保障審議会医療会,医師の働き方改革及びタスク・シフト／シェアの推進について
2)厚生労働省　調剤業務のあり方について（薬生総発 0402 第 1 号）
3)志田敏宏・熊井正貴・千葉貴志ら　病院薬剤師業務のタスク・シフト/シェアの推進および病院薬剤師の労働環境改善に資する研究
4)独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構. 職場適応援助者（ジョブコーチ）による支援
5)厚生労働省. 職場適応援助者（ジョブコーチ）支援事業について

日本職業リハビリテーション学会第53回埼玉大会
利益相反開示
筆頭演者名：村田久枝
本演題発表に関連し、開示すべき利益相反関係にある企業等はありません

Osaka International Medical & Science Center
大阪けいさつ病院